

科目名	鳥取学					授業タイプ		講義	
科目区分	総合教育	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	吉永 郁生（専任）、太田 太郎（専任）、笠木 哲也（専任）、眞田 廣幸（非常勤）、重田 祥範（専任）、徳田 悠希（専任）、山口 創（専任）								
授業の概要	<p><b>キーワード：鳥取県、自然環境、歴史・文化</b></p> <p>「人と社会と自然との共生」を考察する基盤を、鳥取地域を題材として学習する。鳥取地域の社会は、本来、この地域の気象や地質・地理などの要素に加え、山や森林、河川、里、そして隣接する日本海などの特有の自然環境と、そこに見られる動植物などを基盤として成立している。結果として、鳥取地域には原始古代から現代までの歴史や建造物を背景としつつ、特有の民俗や信仰、習わしなどが定着し、現在のこの地域特有の社会や文化、産業などに受け継がれている。鳥取地域における特徴的な事項を相互に関連付けながら解説し、受講生に鳥取地域の自然環境と歴史文化を総合的に理解させることを目的に、複数の教員によって講義を行う。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥取県の自然環境の特徴と歴史文化を総括的に学習することによって、日本の中の鳥取の位置付けを理解し、説明できる。</li> <li>学習した鳥取県の自然環境と歴史文化を基にして、現在の鳥取県の身近な課題について、自ら発見できる。</li> </ul>					カリキュラムマップ項目			
						I	II	III	IV
						○			
授業計画	<p>① オリエンテーション：鳥取学を学ぶ意義、授業および評価法について説明する（吉永）</p> <p>② 歴史文化（第1回）：鳥取の黎明-弥生から古墳時代へ-（眞田）</p> <p>③ 歴史文化（第2回）：古代の因幡と伯耆-律令制下の鳥取-（眞田）</p> <p>④ 歴史文化（第3回）：山岳信仰-大山と三徳山-（眞田）</p> <p>⑤ 歴史文化（第4回）：戦国の争乱-因幡と伯耆-（眞田）</p> <p>⑥ 歴史文化（第5回）：鳥取藩と城下町（眞田）</p> <p>⑦ 歴史文化（第6回）：鳥取県の誕生（眞田）</p> <p>⑧ 歴史文化（第7回）：鳥取県内の歴史的建造物と町並み（眞田）</p> <p>⑨ 自然環境（第1回）：鳥取の気象について学ぶ（重田）</p> <p>⑩ 自然環境（第2回）：鳥取の地形について学ぶ（徳田）</p> <p>⑪ 自然環境（第3回）：鳥取の地質について学ぶ（徳田）</p> <p>⑫ 自然環境（第4回）：鳥取の動物について学ぶ（笠木）</p> <p>⑬ 自然環境（第5回）：鳥取の植物について学ぶ（笠木）</p> <p>⑭ 自然環境（第6回）：鳥取の海と海洋生物について学ぶ（太田）</p> <p>⑮ 自然環境（第7回）：鳥取の一次生産物について学ぶ（山口）</p>								
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 2点、第2回～第15回 各7点（合計100点）</li> <li>各回の当教員による小テストかレポート（第1回～第8回）、あるいは理解度チェックシートの提出（第9回～15回）</li> </ul>								
講義外での学習	毎回の自主的復習のほか、各自の出身地の自然や歴史・文化に関わる書物を、一冊でも良いから読むことを望む。								
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容が多岐にわたるため、毎回きちんと整理しておくこと。</li> <li>オンラインと対面の講義があります。オンラインの出席確認はフィードバックで行う。</li> </ul> <p>※先修科目： 特になし</p>								
教材	<p>◆教科書： 対面の講義で印刷資料を配布することがある。</p> <p>◆参考書：</p>								
実務経験のある教員による授業科目									

科目名	麒麟の知					授業タイプ		講義	
科目区分	総合教育	履修区分	選択	配当年次	3	単位数	2	開講区分	前期
教員名	倉持 裕彌（専任）、太田 太郎（専任）、甲田 紫乃（専任）、佐藤 彩子（専任） 竹内 由佳（専任）、戸苅 丈仁（専任）、山口 和宏（専任）、吉永 郁生（専任）								
授業の概要	<p><b>キーワード：在来知の発掘、地域課題の解決、麒麟地域（鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町、新温泉町、香美町）</b></p> <p>1年次配当の「鳥取学」を基礎知識とし、1、2年次に受講した「麒麟プロジェクト研究（プロジェクト研究1～4のうちの一つ）」で学んだ鳥取（特に鳥取市、八頭町、智頭町、若桜町、岩美町、および兵庫県新温泉町、香美町を含む麒麟地域）の課題や在来知に関して、関連する専門科学（自然科学、社会科学および人文科学）的見地から解説することで、知識を深化する。「鳥取学」と「麒麟プロジェクト研究」の事後学習と位置づけ、専門課程における専門科目の学修へのきっかけとする。</p>								
到達目標	鳥取または関連するフィールドに係る具体的かつ実践的な取り組み事例に触れることによって、地域課題の理解力と専門的知識の応用力を高める。	カリキュラムマップ項目							
		I	II	III	IV	V	VI	VII	
					○	○	○		
授業計画	<p>① ガイダンス（倉持）（4/9）</p> <p>② 鳥取県における水産物のブランド化の実情：地域特産物から地域ブランドへ（太田）（4/16）</p> <p>③ 鳥取の水産物から見た未来（吉永）（4/23）</p> <p>④ ゲストスピーカー（智頭町）（4/30）</p> <p>⑤ 鳥取における脱炭素社会に向けた取り組み（甲田）（5/7）</p> <p>⑥ ゲストスピーカー（八頭町）（5/14）</p> <p>⑦ 鳥取をフィールドとした有機性廃棄物からのエネルギー回収と地域内資源循環（戸苅）（5/21）</p> <p>⑧ ゲストスピーカー（岩美町）（5/28）</p> <p>⑨ 鳥取県の農村の現状と課題（山口）（6/4）</p> <p>⑩ ゲストスピーカー（若桜町）（6/11）</p> <p>⑪ ゲストスピーカー（商工会議所青年部）（6/18）</p> <p>⑫ 鳥取県の医療・介護サービス人材の特徴と課題（佐藤）（6/25）</p> <p>⑬ ゲストスピーカー（新温泉町）（7/2）</p> <p>⑭ 農産物マーケティングと鳥取におけるその課題（竹内）（7/9）</p> <p>⑮ ゲストスピーカー（鳥取市）（7/16）</p> <p>※ゲストスピーカーは現在調整中であり、今後増える可能性がある。</p>								
評価方法	各担当教員毎にミニテスト（計6～7回）を実施し、その合計点で評価をします。								
講義外での学習	内容が多岐にわたるため毎回の復習が必要です。またより深い知識を得るために、講義内容に関連する書物や文献を読むことが望まれます。								
履修上の注意事項	<p>講義内で課題が提示されます。</p> <p>※先修科目： 履修にあたって、「鳥取学」「麒麟プロジェクト研究」を履修しておくこと</p> <p>※他学部履修： 特に制限無し。事前確認不要。</p>								
教材	<p>◆教科書： 毎回の講義で資料を配付</p> <p>◆参考書：</p>								
実務経験のある教員による授業科目									
民間企業や行政機関等での実務経験を有する教員が、地域課題やその解決策について、実践的な見地から講義する。									